

株式会社ニチレイ

経営企画部 技術戦略企画部

〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル TEL 03-3248-2232 FAX 03-3248-2150 URL http://www.nichirei.co.jp/report/2014/index.html



当社は年間100万kWhのグリーン電力を契約し、本CSRレポートの印刷・製本にかかる 電力(700kWh)相当分をこの一部でまかなっています。



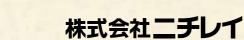








なまえ







編集方針

ニチレイグループはCSR活動を幅広いステークホルダーの皆さ まにご理解いただき、コミュニケーションを深めるためにCSRレ ポートを作成しています。2009年度よりWebサイトにフルレポー トを掲載し、冊子はダイジェスト版として発行しています。

本ダイジェスト版はニチレイグループ[6つの責任]を背景にした 活動の中で、ステークホルダーの皆さまに特に知っていただきた い事例について掲載しました。

本年度は、商品パッケージに込められた当社グループの品質保 証へのこだわりや、低温物流事業の環境活動とお取引先様への お役立ちについて、特集ページで紹介しました。また、昨年に引き 続き、働きがいの向上に関わるパフォーマンスデータを開示してい ます。

ニチレイグループCSRレポート2014

URL: http://www.nichirei.co.jp/report/2014/index.html 本ダイジェスト版に掲載されていない取り組み事例をWebサ イトで紹介しています。

各項目のURL、Webサイトでの掲載場所、Webサイトのみの掲載 内容は各ページ上部をご参照ください

〇対象期間

2013年4月1日~2014年3月31日の活動実績を中心に掲載し ています。

○対象範囲

ニチレイグループの国内事業所およびグループ会社を対象範囲と して記述しています。(上記と対象範囲が異なる場合、その旨を記 載しています)

○発行月

2014年6月

○ [CSRレポート2014]に関するお問合わせ先

株式会社ニチレイ 技術戦略企画部

〒104-8402 東京都中央区築地6-19-20 ニチレイ東銀座ビル TEL: 03-3248-2232(ダイヤルイン) FAX: 03-3248-2150

会社概要(資本金および従業員数は2014年3月末日現在)

株式会社ニチレイ

立 1945(昭和20)年12月1日

資 本 金 30,307百万円

従業員数 12,970名(連結)

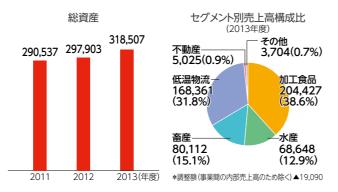
本社所在地 〒104-8402

東京都中央区築地六丁目19番20号

ニチレイ東銀座ビル

電話番号 03-3248-2101(代表)





CONTENTS -



グループの品質保証 ニチレイフーズの品質保証 ニチレイフレッシュの品質保証 ■特集2 環境·· 18 ニチレイロジグループの コールドチェーンが支える お取引先様へのお役立ちと環境への配慮 環境への配慮…

中期日標と実績

(働きがいの向上…… 従業員に対する各種調査と施策 従業員とのコミュニケーション ダイバーシティの取り組み ニチレイフーズの技術の 粋を集めた船橋第二工場が 誕生しました。 コンプライアンスの徹底 コーポレートガバナンスの確立 ……30 第三者意見

ニチレイグループの事業概要

株式会社ニチレイ [持株会社]

ニチレイグループ全体を統括する持株会社として、グループ全体の経営プランニング・モニタリング・資金調達・各事業会社 の経営支援の機能を有し、企業価値の最大化を目指した組織運営を推進しています。またグループが保有する土地などの資 産を有効活用する不動産事業を運営しています。

株式会社ニチレイフーズ[加工食品事業]

代表取締役社長:池田 泰弘 資本金:15,000百万円

人々のくらしを見つめ、食を通じ健康で豊かな社会の実 現に貢献することを目指し、「おいしさ」「健康」「楽しさ」 「安全・安心」「簡単・便利」「安定供給」「適正価格」を7つ の基本価値としています。冷凍食品、レトルト食品、ウェル ネス食品を通じて常に独自能力を磨き卓越した価値を創 造することで、世界で最も信頼される食品企業を目指し ます。





株式会社ニチレイフレッシュ[水産・畜産事業]

代表取締役社長:大谷 邦夫 資本金:30,307百万円

代表取締役社長:早間 元晴 資本金:8,000百万円

グローバルな調達機能を活かし、「鮮度」「おいしさ」「安全」 「安心」「健康」「環境にやさしい」をキーワードに、水産品・畜 産品の「こだわり素材」の開発を進めています。あわせて 「持続可能性」を念頭に、資源や環境にも配慮。より高い「生 活者価値の創出を通じて、お客様の期待にお応えできる よう、新たな事業分野への挑戦や社会との調和にも積極的 に取り組んでいます。





株式会社ニチレイロジグループ本社[低温物流事業]

代表取締役社長:松田浩 資本金:20,000百万円

輸配送を軸とした物流ネットワーク事業会社と、冷蔵倉庫事業を担う地域保 管事業会社、欧州・中国・タイに展開している海外事業、低温物流施設の企画 から運営管理まで支援するエンジニアリング事業会社で構成される、国内最 大規模の低温物流企業グループです。高度な物流情報システムインフラで結 ばれた輸送、保管、流通加工、配送から、物流センターの設計・施工・メンテナ ンスまで、サプライチェーン全体にわたる高品質なサービスを提供。荷主企業 様の物流最適化に貢献し、日本の「食」を支え続けています。



株式会社ニチレイバイオサイエンス[バイオサイエンス事業] 代表取締役社長:中村隆 資本金:450百万円





バイオテクノロジーを通じて、一人でも多くの方の心と身体の健康に貢 献するために、お客様が求める新たな価値を提供することをミッション としています。また、セルバイオロジー分野とニチレイグループの素材調 達力を生かした機能性素材を事業分野とし、高品質の製品・サービスを 提供することにより医療、健康、バイオ産業の発展に貢献する専門性に 秀でた技術指向型企業を目指しています。

2

28

「ニチレイグループと社会課題」の歴史

ニチレイグループは、「くらしを<mark>見つめ、人々に心の満足を提供</mark>する」というミッションのもと これからも、より良い社会づくりに貢献していきます。



1940年代 戦後復興期 食糧難

1960年代 高度経済成長期 衛生問題 食の洋風化

1970年代 第2次 ベビーブーム 電子レンジの普及

200海里規制による 漁業制限 1986

1980年代 女性の社会進出による時間不足

男女雇用機会均等法施行

1990年代 価値観やライフスタイルの多様化

地球環境重視の時代 食料自給率の落ち込み

http://www.nichireifoods.co.jp/

http://www.nichireifresh.co.jp/

https://www.nichirei-logi.co.jp/

1997 京都議定書 採択

ニチレイバイオサイエンス ▶ https://www.nichirei.co.jp/bio/

ホームページでは、さらに詳しい情報を掲載しています

1940年代

1950年代

1952 全国すべての小学校で

学校給食の実施

1960年代

1970年代

1980年代

1990年代

ニチレイフーズ

ニチレイフレッシュ

ニチレイロジグループ

2000年代



1942 帝国水産統制株式会社の



1943 水産物の買入・販売 ならびに製氷・冷蔵・

凍結事業を開始 1945 日本冷蔵株式会社に

商号を変更

1956 畜産事業の開始



1977 運送取扱い子会社を 設立し、運送事業の



1982 バイオテクノロジー分野 へ進出

1984 事業目的に医薬品、 医薬部外品および 試薬の製造・売買を追加

1985 株式会社ニチレイに商号 を変更

1990 物流事業を本格的に開始

1998 サードパーティー ロジスティクス事業へ進出 (2000年11月に現・ (株)ロジスティクス・プラン ナー(連結子会社)を設立)

2005 会社分割を実施し、 ニチレイグループは 持株会社へ移行

2005 中国(山東省)に おいて、株式会社日清製粉 グループ本社との合弁会社 「錦築(煙台)食品研究開発 有限公司」(関連会社)を設立

2008 ニチレイフーズが、合弁で タイ国内にチキン事業を行う 子会社を設立 (GFPT Nichirei (Thailand) Company Limited)

ニチレイフーズ

1952 調理冷凍食品の 販売を開始

●冷凍による食品の 保存性・簡便性の向上



1960年当時



1986 中高生のお弁当シリーズ発売

●お弁当作りの時間短縮、 メニューのバラエティー化



1995 電子レンジ調理用コロッケが、 日経優秀製品・サービス賞優秀賞を受賞

●レンジ調理対応の揚げ物を開発し調理の手間を軽減

ニチレイフレッシュ

1955 米領サモア島に出張所(1968年5月閉鎖)を 設置し、マグロ事業を開始

1957 オセアニア産牛肉の輸入

●食料需要への対応

1975 国内水産物から 輸入水産物主体の 取扱いに移行

●200海里規制、食料需要への対応



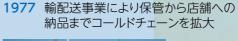
2007 純国産鶏種「純和鶏」の 養鶏・販売事業の 立ち上げ

●食料の持続的自給への対応

ニチレイロジ グループ本社

1952 東京工場を設置 (日本初の超低温・大型冷蔵倉庫)

●冷凍保存技術により食糧難や衛生問題を解決





1989 ニチレイ・ホールディング・ オランダB.V.の設立 欧州事業の基礎基盤構築

1993 大都市圏(関東・関西)大手小売業者様の 専用物流センターを新設。 本格的にTC(トランスファーセンター)事業を開始

●共同配送により社会全体のCO₂を削減

ニチレイバイオ サイエンス

1987 医薬開発室の発足

2002 免疫組織化学染色 診断薬「ヒストファイン」 シリーズを発売

●個別化医療への貢献

2004 インフルエンザ 診断薬の販売開始

●迅速検査の実現



ニチレイグループの企業経営理念

ミッション くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する

ニチレイグループは、人々のくらしに本当に役立つ商品やサービスを一所懸命に創り出し、健康でこ

ころの豊かな生活の実現に貢献します。

ニチレイグループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」とし ビジョン

て、お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信

頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。

ひたすらお客様のために! 発想と行動の原点

1. お客様第一、安全第一、品質第一を貫く 経営姿勢

2. 健全な利益を追求する

3. 付加価値を適正に配分する

4. 法と社会の秩序を守る

- 5. 公正な競争に徹する
- 6. 透明性の高い経営を推進する
- 7. 資源と環境を大切にする
- 8. 世界を見据える

ニチレイグループ[6つの責任]

ニチレイグループは、ステークホルダーの皆さまからの期待に応えるため、経済的・環境的・社会的側面に配慮しなが ら事業活動に取り組み、その活動を広く公表し、理解と対話を深めてまいります。

新たな顧客価値の創造

新たな商品やサービスを創り出し、 生活者の課題解決をする

コーポレートガバナンスの確立

透明で迅速な経営を行う

働きがいの向上

従業員の働きがいを高める

環境への配慮

地球環境の負荷を低減する

コンプライアンスの徹底

法律や規制を守り、倫理性を高める

ニチレイらしい社会貢献の推進

「食」「健康」「スポーツ」をキーワード とした従業員参加型の社会貢献の推進

○ CSR推進体制

持株会社全体がCSR本部 CSR本部(社長が本部長兼務) グループ人財委員会 ダイバーシティ推進協議会 グループリスクマネジメント委員会 グループ環境保全委員会 グループ品質保証委員会 グループ内部統制委員会 グループ役員審査委員会 グループ社会貢献委員会 ふれあい基金理事会

(株)ニチレイ代表取締役社長

品質保証部 技術戦略企画部 経営監査部 事業経営支援部 経営企画部 法務部 人事総務部 財務IR部

経理部

広報部

社会の中でニチレイグループの特性を 活かした事業を行う それが私たちの存在意義



ミッションを実現するために 「6つの責任」を果たす

ニチレイグループは、「くらしを見つめ、人々に心の満足を 提供する。」というミッションを掲げています。グループ各社 の事業内容は違っても、担うべきミッションは同じです。この ミッションを実現することこそ、私たちが事業活動を行う目的 なのです。

その意味で、私たちにとって、日々の事業活動こそがCSR 活動にほかなりません。それぞれの事業会社が、その特性を 活かして事業を展開することによって、より良い社会づくりに 貢献していく。その結果として、社会に信頼され、さらなる成 長を続けていく。そんな存在であり続けたいと願っています。

その活動の基本となるのが「6つの責任」、すなわち「新た な顧客価値の創造|「働きがいの向上|「コンプライアンスの 徹底」「コーポレートガバナンスの確立」「環境への配慮」「ニチ レイらしい社会貢献の推進」です。ミッションを実現するため には、ニチレイグループのあらゆる活動において、「6つの責 任」を果たしていくことが必要です。

「6つの責任」は、時代を越えて守り抜いていく基本方針で

あり、優劣をつけず全員で取り組む未来への課題です。だか らこそ、社会の変化や時代のニーズに応じて、その内容は絶 えず更新していかなくてはなりません。より良い社会づくりに 向けて、今私たちが取り組まなくてはいけない課題は何か、 常に社会に目を向けて自分たちの活動を進化させ、着実に 前進してまいります。

あらゆるリスクを想定して 食の安全を守っていく

2013年は食の安全・安心に対する新たな脅威に、改めて 社会的な不安が高まりました。ニチレイグループにとって食 の安全・安心を守ることは至上命題であり、あらゆるリスク に対して備えを固めています。

まず、ニチレイグループ版フードディフェンス基準を策定し、 ハード・ソフトの両面から対策を強化していきます。これは、安 定供給を目的とした「食品安全保障(Food Security)」、残留 農薬や微牛物などの基準や規制を満たす「食品安全(Food Safety)」に対して、食品テロなど予想を超えた外部からの 攻撃に対する管理を行う、「食品防御(Food Defense)」と いう観点を取り入れたものです。

具体的な施策として、ハード面では検証カメラやICタグ認 証など最新の設備を活用して、不審者の侵入と攻撃を防止 します。同時にソフト面では従業員との対話を重ね、信頼関 係をさらに深めていくことを重視しています。一人ひとりが 「食の安全は自分が守る」という誇りと責任感を持って業務 に取り組み、食の安全・安心を大切にする組織風土を醸成し ていきます。

2014年3月に新設したニチレイフーズ船橋第二工場は、 最新のフードディフェンス対応工場として稼働しているほか、 すでにグループ各社でさまざまな取り組みが進んでいます。

また、サプライチェーンがグローバルに広がる中、世界の どの地域でも通用する品質や安全性を確保していかなくて はなりません。2013年度からスタートした中期経営計画 「RISING 2015」では、基本方針のひとつにグローバルな品 質保証体制の構築を掲げ、さらなる強化を図っています。

例えば、中国産製品については錦築(煙台)食品研究開発 有限公司と連携し、ニチレイ基準に則り安全性を確認してい ます。残留農薬、動物用医薬品、食品添加物の検査に加え、 2012年度からはSGS青島*に微生物検査を委託し、川上管 理に向けた改善を継続的に実施しています。

このほか、原材料に溯って牛産・流通履歴を把握できるト レースバックシステムを運用しています。

食の安全を守る取り組みを日々着実に実践していくととも に、そうして得られた商品の品質情報を、正しく速やかに提 供していくことも極めて重要です。ニチレイグループでは積 極的に情報開示を行っており、各事業会社のホームページ 上で商品情報を公開するほか、お客様相談センターなど直

接コミュニケーションできる場も用意しています。さらに商品 パッケージにも安全情報を漏れなく、わかりやすく表示して います。なお、パッケージの取り組みについては本レポートの 特集でもご紹介しています。

ITの普及や端末の多様化などで、生活者の方の情報収集 の手段はますます広がりを見せています。必要な情報を必要 なタイミングで収集できるように、今後も時代に合わせて多 彩なコミュニケーションのチャネルを用意していきます。ま た、ネガティブ情報についても包み隠さず、積極的に公開す ることによって、社会からの信頼に応えてまいります。

自然の恵みの上に 食の事業は成り立っている

ニチレイグループの扱う"食"は、豊かな自然環境の中で 育まれたものです。いわば私たちの事業は自然の恵みによっ て成り立っており、環境保全の取り組みは、事業の存続と発 展のために必須要件と捉えています。

環境保全活動は、地球温暖化防止、持続可能な資源循環 の推進、自然との共生の3つを重点課題とし、事業会社ごと に事業の特性にあわせた対策を推進しています。

2013年度から2015年度までの環境中期目標では、 2009年度比で電力使用量を5.5%削減、燃料由来CO2排 出量を7.5%削減、という数値目標を掲げました。

その実現に向けて、持続可能な原材料の調達や、食品工 場におけるCO2排出削減、物流時の共同配送やモーダルシ フトなどの施策を進めています。本レポートでは、低温物流 事業における環境配慮について特集を組んでおります。生 活者の方々との直接的な接点の少ない事業ですので、サプ ライチェーンの全体最適に向けた取り組みの数々を、今回詳 しくご紹介させていただきます。

新たな活動としては、鳥取県境港市竹内団地と北海道釧 路市宝町に「ニチレイソーラータウン」を設置。遊休地を活用 して、2013年11月から太陽光発電事業を開始しました。

また、社会貢献の一環として、一般社団法人フォレストック 協会が発行する森林クレジットの購入を通じて、森林保全活 動を支援しています。ニチレイフーズ、ニチレイフレッシュで 対象商品の売上の一部をクレジット購入にあてるプロジェク トを立ち上げています。

そのほか、事業特性を活かした「食や物流に関する教育」 など、ニチレイらしい社会貢献活動に引き続き取り組んでい ます。東日本大震災被災地に関しては、継続的な復興支援 が重要との考え方から、2011年度より5年間の予定で、岩 手県、宮城県、福島県に対して、それぞれ毎年1千万円ずつ 義援金を寄付しています。

価値創造のドライブは 多様で豊かな"個"の力

ニチレイグループは、このようにさまざまな取り組みを 行っていますが、あらゆる活動の主体は人財です。従業員一 人ひとりが自分の仕事に誇りとやりがいを持ち、ニチレイグ ループのミッションを日々体現していくことによって、社会か らの信頼を得られるものと考えています。

価値創造に向け、ダイバーシティのさらなる推進にも力を 入れています。生活者の視線に近い女性管理職の積極的な 登用、豊富な経験を持つシニアスタッフの再雇用、新しい時 代を切り開く若年層の採用など、幅広い層の人財に活躍の 機会を与えています。また、海外への事業拡大に伴い、グ ローバル人財の育成も進めています。

もちろんダイバーシティを進める先に目指すものは、イノ ベーションの創出です。多様な価値観や発想がぶつかり あって化学変化が起こり、革新的な商品やサービスの創出 へとつながらなくては意味がありません。

ニチレイグループには、「顧客満足と従業員満足は経営の 両輪である」という基本的な考え方があります。今後ますま す人財の多様性が広がるなかで、理念や目標を共有しなが ら、一人ひとりの個性や能力、使命感を尊重し、活躍のス テージを広げていくことが極めて重要になります。

「多様で強い"個"が、生き生きと自分の力を発揮する。」 ニチレイグループは、このような豊かな"個"の総力として、 常に革新に挑戦し、社会に新しい価値を提供していく集団を 目指してまいります。

今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

※SGS青島:通标标准技术服务有限公司青岛分公司 SGSは1878年設立、本社はジュネーブ。世界に1650ヶ所以上の 事業所と実験室を備える世界最大級の認証、検査、分析機関。

中期経営計画「RISING 2015」(2013年度~2015年度)

- グループ各社の国内外における収益力を向上し、持続的成長を実現します。
- 2 グローバルな品質保証体制を構築します。
- ② グループ経営資源の適正配分を行うとともに、自己株式取得・増配等適正な株主還元策を継続します。 ※配当方針については従来どおり連結株主資本配当率(DOE) 2.5%を目標とします。
- 4 持株会社体制におけるコーポレート機能を強化します。
- 社会・経済環境の大きな変化に対応して技術戦略の強化を図ります。

商品パッケージを通じてお伝 えする ニチレイグループの品質保証

おもて

分かりやすい表示とデザインでお客様に商品情報を正しくお伝えする

ニチレイグループの商品パッケージは1,000アイテムにおよびます。毎年、新商品の発売や商品リニューアルに合 わせて、新たなパッケージを作成しており、数多くの食品表示関連法令に照らし合わせてチェックしています。

しかしながら、食品表示関連法令を満たしただけでは、ニチレイグループとして最も伝えたい「美味しさのイ メージ』が伝わりません。『美味しさのイメージ』を伝えつつ、お客様に必要な情報を分かりやすく、正しくお伝え することを心掛けています。

Nマークを付与するパッケージについての考え方

例えばニチレイフーズでは、数多くある冷凍食品から選ん でいただくためにパッケージに様々な工夫を施しています。

● 安全情報を漏れなく記載すること

表示に関係する各種の法令で定められている基準に 従い、アレルゲン情報や栄養成分などを表示していま す。また、調理上の注意点などを分かりやすく図や絵な どを用いて表示しています。

2 商品選択情報を記載すること

お客様にはそれぞれ商品を選択する際にこだわりがあ ります。その商品の生産場所や原料原産地や調理の便 利さなど、お客様のニーズの高い情報を分かりやすく 図、絵、二次元バーコードなどを用いて表示しています。

❸ その商品が美味しく見えるようにすること デザイナーと何度も打合せを行い、その商品の美味し

さを想像出来るようなパッケージに仕上げています。

4 お客様からのご相談窓口を示すこと

お客様から色々な情報を得られるようにお問い合わせ 先を表示しています。

⑤業界基準にもとづくこと

認定マークや分別収集の注意喚起などを表示してい ます。

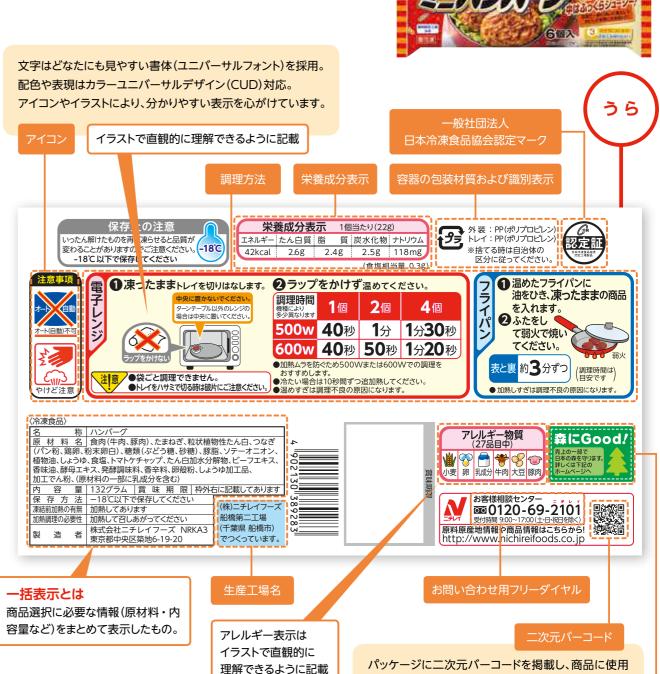
これらの事項はさまざまな調査を行い、多くの情報を集約 して記載しています。一括表示と言われる裏面や側面に枠で







囲って記載している情報は各種法令で定められている事項 であり、ミスがあってはいけません。ミスを防ぐために一括表 示はダブルチェック体制で確認しています。配合レシピに もとづいて、使用している全ての原材料に関する規格書を原 材料供給業者から提出してもらい、内容を精査し、原材料 名・原料原産地を表示しています。さらに賞味期限とロット 番号を表示することで、その商品がいつ、どんな原材料を 使って生産したものなのかを調べることができるようにして います。ニチレイフーズでは、お客様とのコミュニケーション が大切だと考えており、お問い合わせ用フリーダイヤル番号 を見やすい場所に表示するように工夫しています。



表示に関する主な法令

一括表示	食品衛生法、JAS法、計量法
アレルギー表示	食品衛生法
栄養成分表示	健康増進法
容器の包装材質および識別表示	容器リサイクル法
商品アピール表示	景品表示法

ニチレイCSRレポート2014 **11**

「お弁当にGood!」の売り上げの一部

で森の保全活動を支援しています。

している原料原産地ならびに商品情報をモバイルサイ

トにて確認できるようにするほか、生産工場を明記する など、お客様の知りたい情報の提供に努めています。

遵法性チェックとお客様視点でのチェックを 経ることがニチレイ基準

安全情報や商品選択情報を漏れなく記載するために、表示の作成から商品が出荷されるまでに、さまざまなチェックを実施しています。遵法性はもちろんのこと、お客様に誤解を与える表現がないように細心の注意を払っています。ブランド審査の中でも、この2点を意識した表示チェックを実施しており、合格した商品だけが生産可能となります。

● Nマークを付与する商品パッケージを印刷する前の確認

作成

- ✓ まず、取得した原材料に関する規格書とレシピにもとづいて配合明細表、配合割合表を作成します。
- ✓ 次に、配合明細表、配合割合表を元に、チェックリストに沿ってパッケージに記載する内容を 作成していきます。
- ✓ このチェックリストの中には、法律や食品業界のガイドラインで定められている内容はもちろんのこと、自主的に定めている内容(商品特性・調理方法)も含まれています。
- ✓ また、栄養成分を表示する場合(家庭用商品) には、実際に分析した値を記載しています。

確認

- ✓ 配合割合表をもとに、表示内容が正確に記載 されているかどうかを細かく確認しています。
- ✓ また、記載された表示内容が、法律や条例、社内基準に合致しているか、徹底した確認を実施しています。
- ▼特に健康危害に直結するアレルギーの表示に ついては、抜け漏れや誤記入のないように十 分な注意を払っています。
- ✓ 家庭用商品については、日 頃からお客様の要望を受け ているお客様相談センターでもパッケージを 確認し、表示内容の改善に役立てています。



栄養成分表示 1個当たり(22g) エネルギー たん白質 脂 質 炭水化物 ナトリウム 42kcal 2.6g 2.4g 2.5g 118mg

ニチレイフレッシュ社員から一言

ニチレイフレッシュでは、生鮮食品から加工食品にわたり、素材を起点とした幅広い食品を取り扱っています。特に海外から素材品を輸入する場合は、水産物の品種名、畜産物の部位名などについて、調達先に確認、あるいは、必要に応じて証明書を取り寄せて、法令や行政のガイドラインなどにもとづいて表示が妥当かどうかを都度商品担当と協議して、表示しています。

(株)ニチレイフレッシュ 品質保証部 マネジャー 甲斐 泰樹

(食塩相当量 0.3g)

ニチレイフーズ社員から一言

商品パッケージは、ニチレイフーズがお客様とコミュニケーションできる場でもあります。法令によって表示しなければならない事項に漏れがあってはなりませんが、パッケージを通してお客様にその商品の特徴や魅力、原材料や製法のこだわりもお伝えしたい。品質保証部では表示事項の遵法性チェックのほか、商品名、セールストークやアイキャッチコピーに誤りやお客様が誤認してしまうような表現はないかについても常に確認しています。

(株)ニチレイフーズ 品質保証部 表示規格グループ グループリーダー 清水 左都子



● 食品工場で、パッケージに 商品が充填された後、出荷前の確認

ブランド審査

ニチレイホールディングの

- ✓ Nマークを付した商品パッケージについては、 ブランド審査の一部として、表示内容のチェッ クを実施しています。アレルギー表示など健康
 - 危害に直結する内容を含め、 法律に規定されている表示を 重点的にチェックしています。
- ✓ また、お客様視点で表示内容を全体的に確認し、誤解を生むような表現や分かりづらい部分がないか確認しています。特

にセールストークなど商品購買に影響する重要 な表示については、誇大表示や虚偽表示にならないか、十分注意するようにしています。

工場

- ✓ まず、工場に納入されたパッケージフィルムや 段ボールが、事前に確認した表示内容と一致 しているかどうかを確認します。
- √ 次に、工場で印字した賞味期限やロット番号、 トレースバックコードについて、正確な内容と なっているか、かすれや滲みなどの印字不良 がないかなどをチェックしています。
- ✓ 出荷前の最終チェックとなりますので、工場内でも2 重3重のチェックを実施しています。

印字チェック

2015.4.9 迄B(5) 16 H10 M 01511

詳しくはWEBへ >>> http://nichirei.co.jp/report/2014/topic/001.html

ニチレイ社員から一言

表示内容は直接お客様が商品を選択する上で重要なツールとなります。万が一この記載が間違っていた場合にはお客様からの信頼を損ね、ブランドイメージも損なう可能性があります。近年ニュースで取り上げられているアレルギーなど健康に大きく影響する表示や、企業姿勢が問われる景品表示法関連の表示については、特に注意して確認しています。お客様視点での表示チェックを心掛け、Nブランドの維持・向上に努めています。

(株)ニチレイ 品質保証部 北村 康太郎



正確な商品情報は正確な原材料情報から

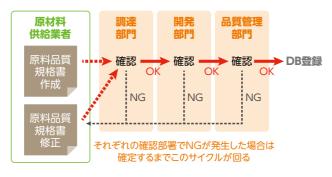
商品情報を正確に伝えるためには原材料に関する情報が正確でなければなりません。ニチレイグループでは 原材料情報を得る為に原材料に関する規格書を原材料供給業者に提出してもらっています。受け取った規格書 は後述する内容について、何度もやり取りを重ねて精査し、商品パッケージの作成材料として活用します。加工 度の高い原材料では精査に数ヶ月要することもありますが、お客様が求める情報を正確に得られるまでやり取り を重ねています。

原材料の管理

ニチレイフーズは原材料のもとになる素材を3段階まで 遡って調査し、配合割合、品質・微生物規格、製造工程、含有 アレルゲンなどを管理しています。原材料供給業者には、それ らの内容を一覧化した「原料品質規格書」を原材料ごとに提 出してもらいます。「原料品質規格書」に記載されている内容 はデータベースに保管し、食品表示の作成やお客様からの問 い合せ対応に活用しています。

新規の原材料を使用する際には、事前に行う生産工場の 工場診断や工場指導、「原料品質規格書」の内容確認、事前 サンプルチェックなどを総合判断して取り引き可否を決めて います。取り引き開始後も工場診断や工場監査を行い、工場 改善を継続的に実施させることで原材料の品質をさらに向上 させるようにしています。また原材料受入時に品質をチェック することにより、工場診断・工場監査の効果検証を実施して います。

●「原料品質規格書」の精査フロー



トレースバックシステム 商品パッケージに記載のコードから冷凍野菜の農地まで限定

0

トレースコードで何が分かるの?

トレースコードより次頁の解説図のように栽培農地 まで追跡することが出来ます。

ニチレイフーズの冷凍野菜では、栽培管理・生産管理の追跡のためにトレースコードを印字しています。このトレースコードが分かれば、畑での栽培管理状況から工場での生産状況までの履歴を追跡することができます。トレースコードを有効に機能させるために、ニチレイフーズでは現地生産者と相談しながら継続的な改善を行い、お客様のさまざまなご要望にお応えできる様に、進化し続けています。

栽培管理とは何をしているの?

ニチレイフーズが中国やタイなどで生産する冷凍野菜は、畑の環境(土壌、水質など)、農薬の管理状況などのニチレイフーズ基準をクリアした農場を選定しており、これらの農場には定期的に冷凍野菜生産工場の農場指導員が巡回して栽培状況を調査し、適正に管理されていることを確認しています。ニチレイフーズはこの仕組みが確実に実行されていることを現地におもむいて確認しています。

Q

生産管理とは何をしているの?

ニチレイフーズが冷凍野菜の生産を委託している契約工場には品質管理のノウハウを指導しており、適正に栽培管理された野菜を入荷・選別・洗浄・加工・凍結・包装・検品・出荷と徹底した品質管理のもと製品化し、生産記録を残しています。

残留農薬については、下処理時に現地の検査機関で問題がないことを確認し、出荷時にもニチレイが技術指導を実施している生産工場検査部門で問題が無いことを検証しています。さらに、日本国内においてもニチレイ食品安全センターで残留農薬、衛生状態などを計画的に検査し、安全性を検証すると共に、現地での仕組みが適正に機能しているかを確認しています。



パッケージ作成に携わる者の想い

パッケージは、お客様と商品の出会いの場です。さまざまな情報を分かりやすく正確に記載することを心掛けています。そのためには原材料情報の管理について細心の注意を払う必要があります。数百種類以上もある原材料について原材料供給業者での管理状況や原材料の特性

を正確に把握しています。また賞味期限、ロット番号、トレースコードは商品の履歴を調べる ための重要なツールであり、可能な限り詳細に追跡ができるような表記内容にすべく 工夫を重ねています。私たちパッケージ作成者は作成する立場であると同時にお客様 の視点が必要であると認識しています。今後も常にお客様の立場になって、お伝えし たい内容を『見やすく』『分かりやすく』『簡潔に』記載することを心がけてまいります。

(株)ニチレイ 品質保証部 副部長 田中修一郎

食の安全・信頼



http://nichirei.co.jp/report/2014/safety/001.html ホーム > CSRレポート2014 > 食の安全・信頼

品質保証に 関する 基本方針

- 1. 食品衛生法、農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律等の食品関連法令、その他事業関連法令により要求される事項を遵守すること。
- 2. グループ品質管理規程で定める品質保証 に関する要求事項を、グループ全体で遵守
- するとともに、製造委託先に対しても遵守させること。
- 3. 食品の安全・安心に対する生活者・取引先の 要求事項を確実に把握し、グループ全体の 品質保証力を継続的に高めること。

グループの品質保証

○ ブランド審査制度

ニチレイグループでは、グループ品質基本方針および品質 管理規程に沿って、各事業会社の事業内容に応じた品質保 証活動を行っています。

ニチレイ品質保証部は、お客様からの品質に対する信頼に お応えするために「ブランド審査制度」を設けています。この ブランド審査は、工場審査と商品審査からなり、各事業会社 が新たにニチレイブランドを付けた商品の生産を開始する前 に、その生産工場およびその生産ラインに対して実施するも のです。この審査に合格した商品だけが、ニチレイブランドを 付けて販売ができます。

ニチレイブランドが付与されるまで



■ 工場審査の内容

- 事業会社の事前審査ののち、専門教育を受けた工場審査 担当者が必ず工場におもむいて審査を実施。
- 管理・運営面25項目、施設・衛生面30項目からなり、細分 化すると約150ポイントをチェック。
- 事前審査と同じ項目であっても重要なものは、必ず工場 審査担当者が審査を行い合否を判定。

工場審査の一例(以下のポイントを調査)

項目	ポイント	評価
アレルゲン管理が 適正に行われる 仕組みがあるか	● 当該工場の生産品に含まれているアレルゲン 情報を原材料規格書や商品仕様書などで検 証し、それらを適正に管理する仕組みを構築 しているか	5 段階
	② 人のアレルギー反応やアレルゲン管理の必要性について従業員教育が行われているか	階

WEB

- ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています。
- ▶2013年度の活動と今後の取り組み
 ▶グループの品質保証:安全性確保のための検査体制、
 従業員を対象とした品質衛生管理向上のための教育、外部機関を活用した技能試験、商品事故等緊急時の対策・回収方針
- ▶ニチレイフーズの品質保証:品質保証組織体制の強化、商品情報データベース
- ▶ニチレイフレッシュの品質保証:こだわり素材の品質管理、輸入品の検査体制、生産工場の品質マネジメントシステム
- ▶お客様とのコミュニケーション:お客様相談センターの活動、ホームページによる情報発信、医療従事者向けに情報サイトの提供
- ▶サプライチェーンとの協働:ニチレイフーズのCSR調達方針、中国における取り組み(錦築〈煙台〉食品研究開発有限公司の検査体制、 冷凍野菜における取り組み、うなぎ蒲焼サプライヤー遠宏集団との取り組み、上海市や華東地区における低温物流事業の拡大)
- ▶お取引先様とのコミュニケーション:「ニチレイフレッシュこだわりセミナー」の開催、ロジネット協力会全国会定時総会の開催、 ニチレイロジグループのお取引先様に対する顧客満足度調査

ニチレイフーズの品質保証

→ 調達段階での原材料管理 (サプライチェーンマネジメント)

ニチレイフーズ素材調達部原料グループの統括のもと、製品の生産工場が「原料メーカー工場診断シート」に沿って原材料供給業者の工場を診断し、この診断に合格した原材料供給業者とのみ取り引きを行っています。

取り引き開始後も工場診断評価点に応じた指導を行い、改善を継続的に進めています。また、素材調達部と生産工場の品質保証部門が共同で重点業者を選定し、工場診断を実施することで、より高い精度で原材料管理を行います。

原材料は3次原材料まで遡って調査し、配合割合、衛生規格・製造工程などを管理します。原材料供給業者はそれらの内容を記載したニチレイフーズ指定の「原料品質規格書」を発行します。その後、データベースに保存され、表示の作成やお問い合わせ対応などに活用されます。新規原材料の購入に当たっては、工場診断とこの規格書を確認し、サンプルをチェックしたうえで選定しています。

◆ 生産段階での品質管理の徹底

食品衛生・安全の各種関係法令およびニチレイフーズの専門ノウハウを反映した品質管理規程にもとづき、生産時の品質を管理しています。さらにISO9001とHACCPをベースにした管理手法を取り入れ、生産品目ごとに工程管理基準書を中心とした製品仕様書を作成しています。製造工程における具体的な管理項目・条件を定め、それにもとづき生産を行っています。また、国内直営工場を中心に展開してきた、主にトレーサビリティ用に自社開発したPAS(Production Assistance System)を一部の海外投資工場にも展開しました。トレースの仕組みが電子化され検索のスピードアップが図れるとともに、製造現場での配合ミスなども防げるようになり、作業管理の精度が向上しました。

これらの仕組みは、毎月生産工場で行われる品質保証委員会でレビューされます。さらに品質監査グループによる生産工場定期監査、およびISO認証機関の監査を受けています。

ニチレイフレッシュの品質保証

○品質保証体制

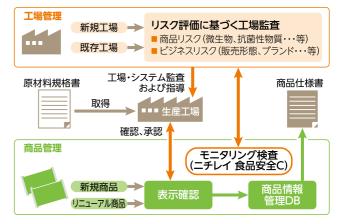
ニチレイフレッシュでは、工場管理と商品管理を柱に、品質 保証体制を構築しています。そのベースとなるのが、リスクマ ネジメントの視点から商品リスク、ビジネスリスクの大小を合 理的・客観的に評価する「リスク評価」です。

新規工場と取り引きを開始する場合は、リスク評価結果にもとづき、事前監査を実施。既存の工場には年度ごとのリスク評価結果にもとづいて定期監査を実施し、必要に応じて指導も行います。さらに、FA*シリーズなどのこだわり素材を取り扱う工場については、生産工程全般にわたるシステム監査を実施しています。

また、お客様への正確な情報提供のため、新規商品、リニュー アル商品は品質保証部による表示確認の後、商品情報ととも にデータベースにて管理を行い、各種商品仕様書の作成に活 用しています。さらにリスク評価結果にもとづき、定期的に微 生物・抗生物質などのモニタリング検査を実施しています。

※ FA(Free from Antibiotics): 抗生物質や合成抗菌剤を投与していない

- ニチレイフレッシュの品質保証体制



N =₹עדסטטע-ז

二チレイロジグループの

コールドチェーンが支える お取引先様へのお役立ちと

環境への配慮



国内最大の食品物流ネットワークで、日本の「食」を支えつづけています。

食品冷凍技術により提供される価値は、「凍結されていれ ば微生物は休眠状態となり腐敗・変質等がほぼ完全に抑制 されること」、「急速凍結により細胞が破壊されることが少な く凍結前の品質を高度に再現できること」、「-18℃以下で保 管すれば凍結前の食品の品質を安定的に長期間保持できる こと」などであり、これが、食品のロス削減、価格安定化、安 定的な食糧供給などへの貢献に繋がります。

ニチレイロジグループは、高度経済成長期の食の需要増 を支えた製氷事業や冷蔵・冷凍事業、昭和40年代の健康水 準の向上に貢献したコールドチェーンの整備(肉や魚、卵、野 菜など常温では傷みやすい食品を日本各地へ低温でお届け する)などに関わってきました。食品物流はグローバル化や 社会の変化にあわせてますます複雑化、高度化しています。 また、エネルギーや食糧資源の効率的利用に対する要求も高 まっており、これらの時代にあわせて変化する社会の要求に 応えていくため、私たちも柔軟に変化し、『選ばれつづける仕 事。』を提供し続けています。

ニチレイロジグループの お役立ち

お取引先様への お役立ち

- 安全·安心、 物流品質の向上
- ●コスト削減
- 負担・手間の軽減

環境への配慮

- CO₂削減
- ●排ガス削減
- 交通渋滞削減

ニチレイロジグループ 選ばれつづける仕事。』

- 共同配送
- 3PLの構築
- お客様の認知

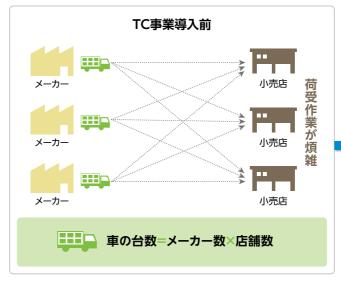
輸配送事業では

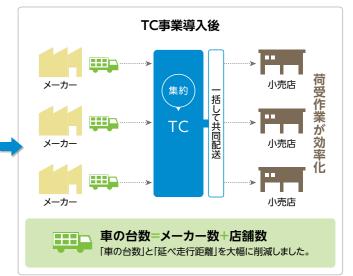
ニチレイロジグループでは共同配送によるお取引先様への お役立ちの実現に注力しています。

共同配送とは個別の配送を行ってきた複数の企業が共同 化することにより、荷物を積みあわせて配送の効率化を図る 方法です。

例えば、複数のメーカーが在庫を一つの冷蔵倉庫に集約し て、お届け先に一括配送することで、環境負荷の削減とお取 引先様の手間の軽減が実現できます。

● 共同配送の一形態「TC(トランスファー・センター)事業」





冷凍食品メーカー3社共同配送

これまでニチレイロジグループは、アイスクリームメーカー 様の共配事業やTC事業における大手スーパー様への店舗 納品、百貨店様の地下食品売り場への共配など、さまざまな 物流共同化に取り組んできました。近年、さらに力を入れてい るのが加丁食品メーカー様の物流共同化です。従来行われて きた配送面の共同化に加え、在庫拠点も共同化することで、 各倉庫からの集配業務を省き、より効率的な物流を実現して います。お届け先のお客様にとっても一括納品による荷受作 業の効率化や、車両・待機時間の削減により騒音・排気ガス

などの影響を少なくすることができ、排出するCO2は従来に 比べて10~20%程度削減できます。冷凍食品メーカー3社 (日本水産(株)、味の素冷凍食品(株)、(株)ニチレイフーズ) の物流共同化は2013年度時点で北海道・中部・中四国・ 九州地区で行われています。中四国地区では2009年度にそ れまで大阪にあった共同保管拠点を広島に移し、共同配送の 範囲を四国から中四国全体に拡大しました。

これによる中国地区における配送車両のCO2削減効果 は、約28%と見込まれます。

● 中国地区への共同物流拡大





● 定期便循環運行

メーカーごとに行っていた中四国地区向け商品補充(大阪 →広島)、四国納品先向け共同配送(広島→四国)、四国地区 生産工場からの商品補充(四国→大阪)を、定期循環運行化

補充便単独運行

ニチレイロジ中国
広島DC

大阪・広島

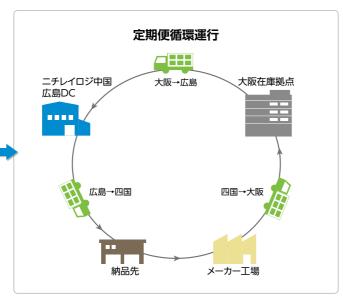
変車

加国・大阪

納品先

メーカー工場

しています。拠点での積込・荷卸時間などの調整を行うことでトラックの空車走行を減らし、さらなるCO2排出量の削減を実現しています。



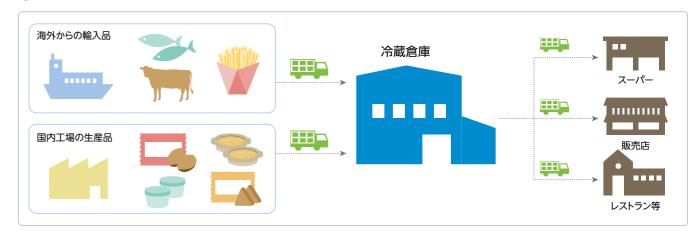
保管事業では

ニチレイロジグループでは現在、国内では約80ヶ所に、冷蔵倉庫を持った物流拠点である物流センター(ディストリビューションセンター)を展開。冷蔵倉庫の総保管能力は約140万トンで、これは日本全体の冷蔵倉庫の約1割に当たります。お客様からお預かりした商品を最適な状態で保管する

ため、冷蔵倉庫内の温度はすべて自動で管理しています。

お客様の必要な時に必要なところへ、安全・安心な食品を お届けするとともに、冷蔵倉庫では環境に配慮した取り組み を推進しています。

○ 冷凍状態で長期間品質を損なわずに保管し需要と供給を調整



○ 冷蔵倉庫におけるCO2排出削減の取り組み

東扇島物流センターの活動

高効率冷凍システム

冷却器の能力を最大限に発揮する高効率冷却器および凝縮圧力を極限まで下げるコントローラーにより、およそ20%の省エネルギー効果を生み出す高効率冷凍システムを採用しました。これにより年間約1,500トンのCO2削減効果が期待できます。

LED照明の設置と運用の工夫

全冷蔵室内および1階荷さばき室にLED照明を導入しました。

低温下においても即時点灯が可能という冷蔵室内LED照明の特性を活かし、フォークリフトにリモコン点灯スイッチを設置することで、オペレーターの作業時以外はこまめに消灯することが可能となり、消費電力の大幅削減が見込めます(実点灯時間を12時間から2.4時間に短縮)。さらに冷蔵室内の照度を少し落としフォークリフトのヘッドライトに大容量LEDライトを取り付けることで、作業に必要な明るさを保ちながら、照明設置台数を3割削減することができました。これらの取り組みにより年間約70トンのCO2削減が期待できます。

自然冷媒冷凍装置の採用

オゾン層破壊係数および地球温暖化係数がゼロである自然冷媒のアンモニアを 使用した省エネ型自然冷媒冷凍装置を採用しています。







環境への配慮

▶環境方針 ▶生物多様性方針 ▶2020年度に向けた目標と重点課題 ▶環境マネジメント体制 ▶ISO14001などの認証取得 ▶環境監査 ▶環境事故、法令違反の状況 ▶環境社内教育:環境展示会、環境e-ラーニングの実施、裏磐梯の社有地における体験型研修 他 【地球温暖化防止】▶食品工場におけるCO2削減 ▶物流センターにおけるCO2削減 ▶オフィスにおけるCO2削減 ▶物流におけるCO2削減 ▶商品におけるCO2削減 ▶再生可能エネルギーの活用

WEB

【持続可能な資源循環の推進】▶ごみの削減・リサイクル ▶化学物質管理 ▶水域・大気への排出抑制

【自然との共生】▶生物多様性

http://nichirei.co.jp/report/2014/environment/001.html ホーム > CSRレポート2014 > 環境への配慮

グループ目標

ニチレイグループでは、グループ環境方針、グループ生物多様性方針を策定し、3つの重点課題に 取り組んでいます。

● 地球温暖化防止の2015年度目標 (2013年度-2015年度)

電力使用量 :2009年度比 5.5%削減 燃料由来CO2 :2009年度比 7.5%削減

- *国内の事業所および所有車両で使用するエネルギー *比較可能な期間内継続稼働事業ベース(廃止・新
- 設等による増減は含めない)

持続可能な資源循環の推進

食品工場、物流センターから排出される廃 棄物リサイクル率99%の達成・維持

中期目標と実績

◆ 重点課題1:地球温暖化防止

2013年度~2015年度中期目標は電力使用量とCO₂排 出量のトレンドが相反するため、電力排出係数を固定した CO2排出量削減目標から電力使用量そのものの削減目標を 定めています。加えて、燃料中来のCO2排出量とは、これまで の活動実績や使用状況が異なることから、それぞれに目標を 設定しています。対象は比較可能な事業所ベースとし、新設事 業所については、省エネ設備導入を推進するとともに、個別状 況に合わせた目標を掲げています。

2013年度の既存事業所電力使用量は、各事業所で設備 更新や運用見直しなどに取り組みましたが生産量の増加な どにより、2012年度比でほぼ横ばいとなっており、2009年 度比で3.3%削減しました。また、2013年度の既存事業所燃 料由来CO2排出量は、食品工場のボイラー燃料転換などが 成果を上げ、2012年度比で1.4%、2009年度比で5.7%削 減しました。

■ 既存事業所電力使用量



- ※ 2009年度を基準年(100%)としている。
- ※ 新設事業所を含む総電力使用量は、2009年度:445GWh、2012 年度:449GWh、2013年度:455GWh

2013年度のグループCO2排出量は、電力排出係数の上 昇、事業所の新設などにより2009年度比で29%増加しまし た。しかしながら、係数を固定して比較した場合は、2%の増 加にとどまっており、ほぼ横ばいとなっています。

今後も、事業所におけるCO2排出削減とあわせて、サプラ イチェーン全体での排出削減に取り組み、社会全体での排出 抑制に貢献していきます。

■ 既存事業所燃料由来CO₂排出量



- ※ 2009年度を基準年(100%)としている。
- ※ 新設事業所を含む総排出量は、2009年度:40,540トン、2012年 度:40,510トン、2013年度:40,370トン

■ ニチレイグループCO2排出量の推移



- ※1 電力排出係数固定: CO2排出量算定のための算出係数を2009 年度に固定した場合
- ※2電力排出係数変動:上記を地球温暖化対策の推進に関する法律 にもとづき変動させた場合

○ 重点課題2:持続可能な資源循環の推進

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています。

地球上の資源を継続的に利用していくために、サプライ チェーン全体での廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化に取 り組んでいます。また、"食"とかかわる企業グループとして地 球からの恵みである生物資源を効率的に無駄なく使うこと、 使い切ることができなかったものも飼料や肥料などに再利用 し循環させていくことにも注力しています。

各事業会社が、廃棄物の排出量削減およびリサイクル率の

ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率



維持・向上を継続推進し、2013年度の事業所外排出量は 36.990トンとなり、リサイクル率は99.5%となりました。現在、 最終処分されている廃棄物には、紙くずなど地域によって事 業系一般廃棄物の処理場が単純焼却している場合や、種類 や量などによってリサイクル先が見つからない場合などありま すが、発生の抑制も含めさらなる削減に取り組んでいきます。

○ 重点課題3: 自然との共生

ニチレイグループの事業は、豊かな地球からの恵みによっ て成り立っており、これは自然界の多様な生態系や生物種な どによって維持されています。あらためてその重要性を再認 識し、さらに取り組みを強化していくため、2010年度にグ ループ生物多様性方針を策定しました。今後も、原材料調達 における周辺環境や生態系への配慮、食材を余すことなく使 い切る、所有地周辺を中心とする自然保護活動、自然の大切 さを伝えることなどに取り組んでいきます。

マテリアルバランス

INPUT

原材料 166+トン

原料 *1 150 千トン 16千トン 包装資材

※1 2013年度から(株)フレッシュチ キン軽米の原料12千トンを含む

エネルギー 5.125∓GJ

3,739トン 購入電力 455,072 千kWh LPG 3.803 kℓ 重油 **633** kℓ ガソリン(社有車) 灯油 198 kℓ 軽油(社有車) 957 kℓ **6,135** ∓m³ 太陽光発電 **223** 千kWh 都市ガス

水 3.939∓m³

1,309∓m³ 上水 工業用水 **655**∓m³ 地下水(井水) 1.975于m3

OUTPUT

廃棄物

事業所外排出量 37.0 千トン リサイクル量 36.8 干トン 最終処分廃棄物量 **2 0.2 千トン

※2 事業所外に排出される廃棄物のうち 直接処分場に埋立てられる廃棄物お よびエネルギー利用などがなく単純 焼却される廃棄物の量

大気系

CO₂ *3 **298,094**トン-CO₂ SOx *4 8トン

- ※3 地球温暖化対策の推進に関する法律 に基づき算出
- ※4 測定実施のばい煙発生施設。車両由 来含まず

水系

排水 2,290千m3 排水負荷量 下水道 **1,439**千m³ BOD *5 50トン 公共水域 COD *5 13トン 851∓m³

※5 排水濃度測定を実施している場合のみ排出量を算出

- ※ 2013年度実績集計対象事業所はWebに掲載しています。
- ※ 四捨五入の影響により合計数字が異なる場合があります。

働きがいの向上



http://nichirei.co.jp/report/2014/work/001.html ホーム > CSRレポート2014 > 働きがいの向上

ニチレイグループは、ミッション・ステイトメントの実現に向け、CSR活動の基本方針「6つの責任」 (P6)のひとつとして「働きがいの向上」を推進しています。

方針 企業経営理念 (ミッション・ステイトメント) :従業員に より

ニチレイグループは、従業員こそ企業発展の源であると考え、会社の仕事が従業員一人一人にとってやり甲斐のあるものであり、自己実現の場の一つとなることを願っています。同時に、従業員の個人の尊厳と個性の発揮並びに個人生活の充実を尊重します。

- 1. 能力開発と能力発揮の機会の提供
- 2. 能力と努力と成果に見合った処遇制の実施
- 3. 安全で風通し良く活性化された職場環境づくい
- 4. 性別·年齢·学歴·人種·宗教などに関する差別 的な行為を防止し、待遇の機会均等を実現

働きがい向上 基本方針

●『社員重視の職場づくり』

「顧客満足度(CS)向上と従業員満足度 (ES)向上は車の両輪である」との基本理念 に基づき、ニチレイグループで働くすべての 従業員が自分の職場や仕事に誇りを持ち、 上司との信頼関係の下、意欲を持って働き、 持てる能力を最大限に発揮できる職場環境 を整備する。

●『ダイバーシティの推進』

ダイバーシティ (異なる属性(性別、年齢、国籍等)や異なる発想・価値を認め、従来と異なる新しい考え方や価値意識を受け入れるだけの許容力を、企業革新の一つの原動力に変えること)の推進を通じて、労働力(人財)の確保、従業員の働きがい・生きがいの向上、さらには新たな発想や価値の創造の実現を目指す。

位置づけ

グループ人財委員会を「働きがいの向上」を推進する委員会として位置づけ、「社員重視の職場づくり」に向けたES調査を起点とするPDCA(ES調査実施→結果のフィードバック→課題の抽出→改善施策の策定・実施)サイクルのモニタリング会議体とする。

活動内容

各事業会社の社長が人事施策に関して協議しています。従業員満足度調査の結果にもとづく「働きがいの向上」に資する改善施策(人事制度や教育訓練計画など)の立案・実施状況やそのときどきの人事施策のトピックス(人事諸制度等の制度改正や春季交渉等)に関して関係者が一堂に会し、情報共有や進捗確認、意見交換などを行っています。

〈推進体制〉

取締役会

グループ人財委員会

ダイバーシティ推進協議会

位置づけ

ダイバーシティ推進協議会をグループ人 財委員会の下部組織として位置づけ、各 課題に対し労使で協議し、その協議内容 をグループ人財委員会に報告する。

活動内容

女性の活躍支援など企業としての男女共同参画推進についての取り組み、外国人採用などグローバル戦略の取り組み、ライフステージや年齢に応じた多様な働き方に資する取り組み、障がい者雇用などハンディキャップのある方の雇用や協働についての取り組み、その他従業員一人ひとりの人権や働きがい・働き方に配慮した施策についての取り組みを中心に、各社施策検討とモニタリングを行います。各社施策の情報共有を進め、有用な施策の横展開等を通じて、グループ各社の「働きがいの向上」の推進、啓発を図っています。

WEB

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています。

- ▶ニチレイグループのダイバーシティ 取り組みの歴史
- ▶2013年度の活動と今後の取り組み

従業員に対する各種調査と施策

○ グループ全体の考え方

ニチレイグループでは「企業の成長は従業員一人ひとりの成長の総和」であるとの考えのもと、第一線の現場で働く従業員のモチベーションの向上と活力ある組織の実現を目指し、『調査の実施→調査結果の分析・フィードバック→課題抽出→打ち手の策定・実行→調査実施(打ち手の検証)』というPDCAサイクルをまわしています。

○ ニチレイフーズ モチベーション調査

調査の目的は、社員のモチベーションおよび組織風土を定 量的・定性的に把握し、課題を見える化し、解決していくこと です。このことが継続的な価値創造につながり、ニチレイフー ズのミッション・ビジョンの実現に資すると考えています。また マネジメントサイクルにおける重要なモニタリングツールの一 つとしています。2007年度より実施し、2013年度で7回日に なりました(1.486名回答、回答率86.5%)。総合的に見ると、 従業員の満足度は高い状態にあると認識しています。2013 年度においては、調査開始以来、経年的に満足度が低い状態 にあった「連帯感」や「連携」といったキーワードの項目につい て、今回改善が見られました。また、「理念への共感」「理念の 浸透度 といった項目については満足度が高い結果となり、ブ ランド推進部を中心とした「あぐら」や「ハミダス通信」など、社 員とのコミュニケーション活性化のための継続的な取り組み による効果であると考えます。今後も引き続き、働きがいのあ る、明るく風通しの良い職場づくりに取り組んでいきます。

○ ニチレイフレッシュ 「社長と語ろう会」

2013年の「社長と語ろう会」は8月から9月にかけて全国6ヶ所(27会場)において、全社員を対象に階層別に開催しました。

第一部は、中期経営計画RISING2015の初年度にあたり、 『需給構造の大幅な変化とニチレイフレッシュの実状と今後 の展開』と題し、「現状認識と課題把握」「顧客の動向」「ニチレ イフレッシュの状況」の3つの視点から外部・内部環境を説明 し、中期経営計画(2013年度~2015年度)で実現すべき姿 を社長から伝えました。

第二部は、少人数による開催で、事前に実施したアンケート 調査も参考に、現状の課題や各人の日頃の意見を中心に、社 長と参加者一人ひとりが自由に話し合う場を設け、参加者全 員とのコミュニケーションを図りました。

「語ろう会」の総括は社長がレビューし、その結果のひとつと して新たに経営企画部を設けるなど、課題の改善や改革に向 けて迅速に取り組んでいます。

○ ニチレイロジグループ 従業員満足度(ES)調査

ニチレイロジグループでは、従業員満足度(ES)向上、「働きがいのある職場づくり」の取り組みとして、2005年度より調査やインタビューを継続実施し、調査結果を検証・分析する事でニチレイロジグループ各社・各事業所における施策立案および実践を進めてきました。

2013年度は、従来のES調査、働きがい実態調査に加え、従業員に配布したコミュニケーションガイドブック(『STEP!』)に関する項目を加え、内容に関する意見や、職場での活用方法などについて調査を行いました。2014年1月に調査を終え、結果について2月に従業員に対しフィードバックを実施しました。2014年度は調査結果から得られた「うまくいっている事例」「良い事例」などを定期的に発信・共有し、他の事業所へ展開していくことで「働きがいのある職場づくり」を推進していきます。

○ ニチレイバイオサイエンス 従業員総合意識調査

ニチレイバイオサイエンスでは、「働きがいを向上させるためには、会社と従業員双方の意識と行動の改革が必要である」という考えのもと「従業員総合意識調査」を隔年で実施しています。この調査結果をもとにして、経営層と従業員双方向の意見交換を促進する機会を増やしたり、従業員同士のコミュニケーションを向上させるための施策や研修を計画・実施することで、働きがいの状況を示す各指標は毎回上昇しています。今後も「従業員総合意識調査」を活用することで、理念・ビジョン・行動指針などの共有とあわせ、「湧き立つような」職場づくりに取り組んでいきます。

働きがいの向上

http://nichirei.co.jp/report/2014/work/001.html ホーム > CSRレポート2014> 働きがいの向上

従業員とのコミュニケーション

ニチレイフーズは経営層と従業員との対話を目的とした 『あぐら』を、2011年度から開始し、2013年度末までに延べ 人数3100名、累計250回実施しました。

2013年度は新たに海外の事業所(ブラジル)や階層別(本社部長、支社長、工場長)の『あぐら』も開催しました。

あぐらも3巡目に入り、回を重ねるごとに話しやすく、議論しやすい雰囲気になっています。従業員が普段思っていることや考えていることが話題にのぼり、より活発な意見交換ができる対話の機会になっています。



あぐらの様子

◆ ニチレイフレッシュ 車座

ニチレイフレッシュでは、「車座」と呼ばれる集会を毎年開催 しています。

社長をはじめとする経営層が、全国各地の事業所や関係会社におもむいて、当社の現状や今後の戦略について説明し、従業員と進むべき方向を共有しています。2013年度は、全国12ヶ所(30会場)で開催し新中期経営計画で目指す姿を中心に話を進めました。

→ ニチレイロジグループ職場コミュニケーションガイドブック発行

ニチレイロジグループでは、これまでES(従業員満足度)と CS(お客様満足度)を経営の両輪と考え、ES向上、「働きがい のある職場づくり」の取り組みを進めてきました。「働きがいの ある職場づくり川においては日常の良好なコミュニケーション が欠かせませんが、仕事上の課題や問題意識を共有し、意見 交換する「会議の場」が十分に機能していることも重要です。 そこで、労働組合と協同で過去から継続実施してきたES調査 結果や事業所インタビューから得られた従業員からの生の声 を反映させたコミュニケーションガイドブック(『STEP!』)を作 成し、全従業員へ配布しました。『STEP!』には、職場での会議 やミーティングを行うための心得を中心に、「まるごとコミュニ ケーション」や「面談」の進め方などについても掲載しました が、会議に限定することなく、日常のコミュニケーションにも 参考になる内容としました。今後、『STEP!』が「働きがいのあ る職場づくり」に活かされるよう適宜フォローを繰り返してい きます。



職場コミュニケーションガイドブック『STEP!』

→ ニチレイバイオサイエンス 車座ミーティング

ニチレイバイオサイエンスでは、社長や経営層を囲んで「車座ミーティング」を開催し、会社の想いや進むべき方向などを パート社員を含めた全従業員と共有、議論しています。

2013年度の「車座ミーティング」は、社長と全従業員との間で個人面談形式で行い、主に、新しい理念と行動指針として策定した「私たちの背骨 -意義と責任-」についての共有と、それに対する自由闊達な意見交換を行いました。

WEB

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています。

【従業員とのコミュニケーション】▶ニチレイフーズの取り組み: [ハミダス]活動、社長動画メッセージ、『あぐら』からの従業員の声とハミダス活動への展開 ▶ニチレイフレッシュの取り組み: A·S·A運動の実施 ▶ニチレイロジグループの取り組み: 選ばれつづける仕事賞 ▶ニチレイホールディングの取り組み: 座談会の実施 ▶労働組合の活動と労使連携 ▶労働組合「働きがい向上委員会」の活動 【人財の雇用・登用と職場環境】▶ダイバーシティ・マネジメント: 公正な雇用機会の提供、女性従業員の活躍支援 J-WINとJAFE (日本女性エグゼクティブ協会)への派遣、一般事業主行動計画、育児・介護への支援 ▶人財育成 ▶安全で快適な職場づくり ▶人財データ集

ダイバーシティの取り組み

○ グローバル人財戦略

ニチレイフーズは、中期経営計画(2013年度~2015年度)における海外事業戦略にもとづきグローバル人財の採用・育成を進めています。

グローバル人財の採用

ニチレイフーズの新卒採用に関しては、中国・タイ・インドネシア・ベトナムやブラジルからの留学生を採用するとともに、留学経験がある人財や海外志向の強い人財の採用を強化しています。また既に海外で活躍した経験・能力を持つ人財のキャリア採用も進めています。多様な人財が『個』を活かしていくことで、新たなマーケティング視点でのスピーディーな価値の提供につながると考え取り組んでいます。

グローバル人財の育成

国籍は多様化するものの、ニチレイフーズの求めるグローバル人財像は『国内外で活躍できる人』であり、決して海外だけの要員とは考えていません。この視点にもとづき、ニチレイフーズは、グローバル人財育成プログラムを実施しています。

地域限定総合職制度

二チレイフーズは2009年度から、地域限定総合職制度を 導入しました。これは、総合職社員が結婚、育児、介護、傷病な どの個人事由により、やむを得ず転居を伴う異動ができない 場合に、期間の上限を設け勤務地域を限定できる制度です。 個人事由が解消した場合は全国勤務型の総合職に復帰する ため、一時的な事情に直面しても、総合職としてのキャリアを 中断することなく、職務を遂行できます。制度導入時は多くの 利用者が結婚や育児事由でしたが、近年では介護事由の利 用者が増え、社員の多様な働き方を支援する制度として定着 しつつあります。2014年4月現在で34名がこの制度を活用 しています。

また、本制度を参考にして、ニチレイバイオサイエンスでも 2009年度より地域限定総合職制度を導入しています。

○ 障がい者雇用

ニチレイグループは、ノーマライゼーションの大きな流れの中で、多様な人財活用の一環として、積極的に障がい者雇用を進めています。

ニチレイ本社、特例子会社*の(株)ニチレイアウラ並びにグループ主要8社を加えた10社合計での2013年度 障がい者雇用率は2.17%(法定雇用率2.00%)となっています。ニチレイアウラにおいては、24名の障がい者(知的障がい者23名、精神障がい者1名)を雇用し、グループ各社・各事業所の清掃、緑地管理、機密書類裁断、郵便物仕分け、発送などの業務を行っています。

(株) NKトランスでは、13名(新座物流センター8名、沼津物流センター5名)の知的障がい者を雇用しています。物流センター構内で商品仕分けや商品積載済み台車の集積、使用済み食品バットの洗浄業務などを行っています。さらに、沼津物流センターでは、自立支援の一環として、地域の障がい者施設で手作りした焼きたてパンを毎月3回食堂にて販売しています。

※特例子会社:障がい者の雇用の促進および安定を図るため、事業主が障がい者の雇用に特別の配慮をした子会社を一定要件のもと設立し、厚生労働省の認可を受けた会社。

○ 企業アクセシビリティ・コンソーシアムへの参加

ニチレイフーズは、一般社団法人 企業アクセシビリティ・コンソーシアム (ACE: Accessibility Consortium of Enterprises) に入会しています。ACEは障がいというダイバーシティを活かした新たな価値創造と企業風土変革、そして「インクルーシブな社会」*の実現を目指し、企業の成長に資する新たな障がい者雇用モデルの確立と企業の求める人財の社会に対する発信を目的として活動しています。

参画している企業などとの情報共有により、人財戦略として掲げているダイバシティー戦略を推進していきます。

※インクルーシブな社会:障がいの有無に関係なく、必要な配慮の下に均等に機会が得られ、等しく活躍することのできる社会(ACE事務局)

ニチレイフーズの技術の粋を集めた船橋第二工場が誕生しました。



2014年3月、千葉県船橋市に、ニチレイフーズ船橋第二工場が誕生しました。

当工場は、家庭用冷凍食品の生産体制の強化を担う工場として、新技術を導入することによる商品力の強化を進めていくと共に、ラインの機械化・省人化による生産性の向上を目指しています。また、持続可能な事業展開を目指し、環境に配慮した省資源対応を推進するとともに、品質管理体制も強化しています。

新技術導入による商品力の強化

●「ミニハンバーグ」に新製法を採用

ニチレイフーズの「ミニハンバーグ」は、発売以来、44年間にわたりご愛顧いただいているロングセラー商品です。船橋第二工場の「ミニハンバーグ」は、「外はこんが

り・中はふっくらジューシー』にでき上がる、ご家庭でハンバーグを焼く方法を再現した新製





新導入設備:上/ダブルベルトグリル焼成、下/マルチスチーマー

法を採用しています。温度のコントロールを細かく調整し「こんがりとした焼き目」を実現しました。また表面をしっかり焼いた後は、フライパンに蓋をする焼き方を再現し「ふっくらとしたジューシーさ」を実現しました。

品質管理体制の強化

● フードセーフティー(食品安全)の取り組み

衛生区(未加熱・加熱)の完全分割

船橋第二工場では、衛生区(未加熱と加熱)ごとの完全 分割を実施しました。各区の作業エリアは更衣室から工 場ライン入場までの作業エリアをすべて別々にし、交差 が起きない設計にしました。またICタグにより通過認証が され、決められた作業者しか入室できません。

PAS (Production Assistance System) による 品質情報の電子化

ニチレイフーズが独自に開発したシステムPASは、原料から製品までの情報管理ならびにトレーサビリティーを目的としてスタートしましたが、船橋第二工場ではさらに、工場内の各機械の設定情報や温度履歴などもトレース情報として結びつけられ、正しい状態で生産されているかをリアルタイムで管理しています。またそれらの管理状況を帳票として自動記録する機能を持っています。

● フードディフェンス(食品防御)の取り組み

ニチレイフーズでは、フードディフェンスに関して4つの原則を設けています。このたび新設した船橋第二工場はそのモデルケースとなっています。





左/|"いいこと"改善活動」全国大会の様子右/あぐら(経営層と従業員との『対話』)

第一原則では、当社が最も大事であると考えている「従 業員との"信頼関係"をつくる I 取り組みをしています。

2008年より工場で初めて働く方を"新人さん"と呼んで、いち早く職場環境に慣れるように従業員全員で「目配り」「気配り」「心配り」を行い、"新人さんを守ろう"の取り組みを全工場でスタートしました。2009年からは、従来から取り組んでいた改善活動の名称を「"いいこと"改善活動」と改め、従業員からの提案や改善活動を奨励し、褒章する活動を始めました。

また、経営層と現場第一線の従業員との対話集会「あぐら」を2011年より始めました。

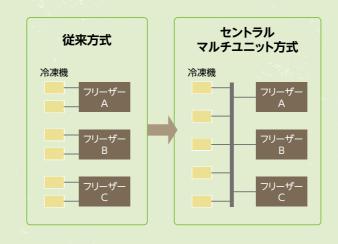
「あぐら」とは従業員の階層に関係なく経営層と対話を し、現場の生の意見を吸い上げたり、経営層の考えや意 思を伝える活動です。

第二〜第四原則では「"不審者"をいれない」「"攻撃"させない」「"証明"できる」を掲げ、主に検証カメラやICタグなどの機器類の設置と運用によって管理しています。

環境への配慮

● 自然冷媒冷凍設備の性能向上と運転制御システムの導入

ニチレイフーズは、自然冷媒のアンモニアや二酸化炭素を使用した冷凍機への転換を進めています。船橋第二工場ではさらに、セントラルマルチユニット方式を採用しました。 従来はフリーザーと冷凍機が1対1で構成されていたの



に対し、複数のフリーザーと複数の冷凍機を組み合わせ、 それぞれの負荷変動に柔軟に対応した運転制御が可能 になる方式です。消費電力は従来方式にくらべ15%削減 できる見込みです。

● LED照明の採用

ニチレイフーズでは、LED照明の導入を各工場で進めてきました。

船橋第二工場では、生産工程での耐久性など慎重に確認してきた結果、破損や劣化の懸念も払しょくされたことから、全館LED照明を採用しました。LED照明は、効率

の高いインバータ式蛍 光灯と比較しても22% の削減効果があり、一 般的な蛍光灯と比較す ると40%の消費電力削 減が得られます。



LED照明

● 容器包装の削減

製品のフィルム包装のシールには従来ヒーターを使ったヒートシール方式が使われています。今回、船橋第二工場で採用した包装機には「超音波シール方式」を使用し、シール面の幅を小さくしました。これにより、包装フィルム材の使用量は4%削減でき、年間では2.3トンのフィルム材を削減することができます。



フィルム包装に超音波シール方式を採用

WEB

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています。

- ▶社外取締役のご意見
- ▶コーポレートガバナンスの確立:各種委員会、内部統制システム、内部統制基本方針、リスクマネジメント体制、投資家向けIR活動の充実
- ▶コンプライアンスの徹底:方針・考え方、コンプライアンス研修(行動規範の周知・教育活動)、内部通報・相談制度、グループ経営監査、 知的財産権への取り組み、情報セキュリティ個人情報保護、業界団体などへの参画、サプライチェーンにおける人権の尊重、従業員の人権の尊重 【ニチレイらしい社会貢献の推進】▶方針と取り組み ▶次世代育成支援 ▶地域貢献活動およびスポーツ支援 ▶環境保護活動

▶寄付活動

コンプライアンスの徹底 コーポレートガバナンスの確立 http://nichirei.co.jp/report/2014/governance/001.html

http://nichirei.co.jp/report/2014/compliance/001.html ホーム > CSRレポート2014 > コンプライアンスの徹底

ホーム > CSRレポート2014 > コーポレートガバナンスの確立

○ 行動規範

1999年4月に制定した行動規範は、日本国内に視点を置 いた内容であり、グローバル経営を展開する上で、内容その ものがそぐわなくなっていることから、2014年4月にニチレイ グループ全体のコーポレートガバナンスの強化および法令導 守と倫理的な事業活動のさらなる徹底を図ることを目的として 「国内外統一版の行動規範」を制定しました。主な改訂につい ては、国連グローバル・コンパクトの4分野10原則なども参考 にして「人権の尊重」を新たに項目立てして第一優先に位置 づけています。また、グローバルコンプライアンスの視点で重 要と判断される「インサイダー取引の禁止」「反社会的勢力と の関与、取引の禁止 なども盛り込みました。

ニチレイグループの行動規範目次(2014年4月改訂)

- 1. 人権の尊重・労働に関する法令の遵守
- 2. 環境保全への取り組み
- 3. 法令および社内規程の遵守
- 4. 会社財産の管理と保全
- 5. 会社財産の私物化の禁止
- 6. インサイダー取引の禁止 7. 財務情報の信頼性の確保
- 8. 情報の管理と利用
- 9. 会社の利益と相反する個人の行為の禁止
- 10. 公務員、取引先などとの不当な利益の授受の禁止
- 11. 反社会的勢力との関与、取引の禁止
- 12. 行動規範の遵守と報告・相談について

○ 業務執行・経営監視

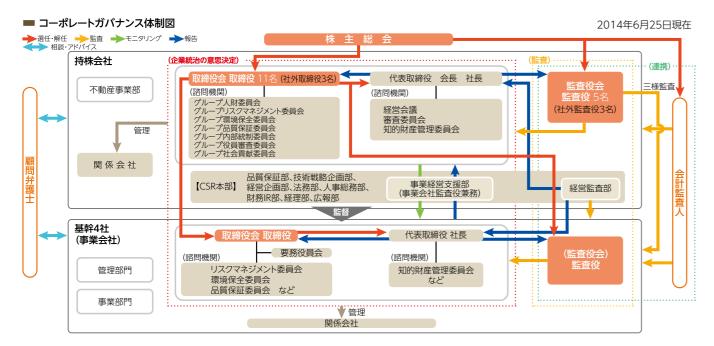
監査役設置会社制度を採用するニチレイでは、経営の透明 性向上と経営監督機能の強化を図るため、取締役の任期を1 年とし、社外取締役を選任するとともに、毎月1回以上の取締 役会を開催しています。

社外取締役は、経営陣からは独立した立場で、経営に関す る各種案件を審議するとともに、グループ戦略や業務執行に 関するモニタリングを行っています。

監査役は財務・会計に知見を有する人材を選任するととも に、経営陣から独立した立場にある社外監査役を置くほか、 両代表取締役が、取締役会とは別に監査役会に対しても定 期報告する機会を設けるなど、業務執行に対する監査役の監 督機能を充分果たす仕組みを構築しています。

また、各事業会社に大幅な権限委譲を行う一方、事業のモ ニタリング機能を強化するため、持株会社であるニチレイの 組織に事業経営支援部を設置し、各社の非常勤監査役を兼 務するとともに、経営進捗状況などを毎月持株会社へ報告す るほか、各社に対し経営のサポートも行っています。

さらにコーポレートガバナンスを有効に機能させるため、取 締役会の諮問機関として7つの委員会を置くとともに、代表 取締役社長の業務執行に資することを目的として「経営会議」 [審査委員会] [知的財産管理委員会]を設置しています。



第三者意見

ニチレイグループ[CSRレポート2014]を読んで

「6つの責任」を軸にしたCSR活動

ニチレイグループは、「6つの責任」を軸に、誠実かつ熱心にCSR活動を展開されていると 判断します。特に、食品産業として、食の安全性に対する活動に力を入れて取り組んでいるこ とが、報告書全体から伝わってきます。その中でも、サプライチェーン全体での品質や安全性 の追求は大変重要で、この点について詳しく報告書で開示されていることは高く評価できる と思います。特に、原料品質規格書の精査フローやニチレイブランドの付与の方法などを説 明されている点は、企業内部のマネジメント体制の説明として、充実しています。今後はこの ようなシステムを運営する上での課題と改善などにも踏み込んで情報開示されれば、より一 層説得力が増すでしょう。



神戸大学大学院 経営学研究科教授

國部 克彦

環境保全への戦略的な取り組み

ニチレイグループは環境保全にも積極的に取り組んでいます。特に、コールドチェーンに関しては、共同配送を戦略的に 進めており、今後の発展と成果が期待できます。地球温暖化防止の2015年度目標に向けた活動では、こちらも戦略的に 高い目標を掲げられて活動されており、高く評価することができます。ただし、グループCO2総排出量についてはほぼ横 ばいの状況なので、今後はこのあたりの改善が必要になってくると思います。

CSRパフォーマンスの指標化へ向けて

ニチレイグループのCSR活動は上記に述べましたように、積極的に展開されていますので、今後は個別の活動に関する 目標の設定や指標化を進められると、より一層高い評価が得られると思います。たとえば、従業員満足度に関する各種の 活動をされていることが報告されていますが、定性的な説明だけでなく、数値情報の開示があれば、実態をもっとはっきり 理解することができますし、目標を設定されれば、活動のモチベーションも高まると思います。

双方向のコミュニケーションを

今後の展開の一つの可能性として、さまざまなステークホルダーとの双方向のコミュニケーションをもっと取り入れられ てはどうでしょうか。外部のステークホルダーがニチレイグループに何を期待しているのかを議論する場を設けることは、 CSR活動の促進と評価に重要な効果をもたらすと考えます。今後のさらなる発展を期待しています。

(株)ニチレイ 取締役執行役員 大内山 俊樹

第三者意見を受けて

國部様、率直なご意見をありがとうございました。

ご指摘いただいたCSR活動の数値化と目標設定並びにステークホルダーとの双方向のコ ミュニケーションに関しては、継続して取り組んでいる課題です。今後とも誠実に改善活動を 進め、積極的に情報開示してまいります。特にステークホルダーとのコミュニケーションは誰 に何を伝えて、どのような効果や評価を得たいのか、明確にしながら開示情報の質を高めて まいります。

「お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好 感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。」というニチレイのビジョンの実 現のために、CSR活動を通じて、リスクマネジメントと価値創造の両立を目指してまいります。 今後ともご指導賜りますよう、お願い申し上げます。